

平成19年度ホンモロコ標識放流調査結果

吉岡 剛・三枝 仁

◆背景・目的

ホンモロコ種苗放流の効果を向上させるため、各体型や場所ごとに異なる標識を施した種苗を琵琶湖各所に放流した。その後、冬期の沖曳網で漁獲された標本の標識を確認し、放流効果を検証した。

◆成果の内容・特徴

- ・ふ化仔魚の放流場所を検討するため、姉川地先とホンモロコ天然産卵場である湖北町地先に放流を行った。
- ・ふ化仔魚放流の効果比較用として、湖北町地先に20mm種苗の放流を行った。
- ・各放流魚の冬期までの生残を推定する目的で、冬期まで育成した成魚を琵琶湖北湖の沖合に放流を行った。
- ・冬期の沖曳網漁獲物6,698尾の標識の確認を行った。
- ・姉川地先放流の再捕率が0.000001%、湖北町放流魚の再捕率が0.000025%と天然産卵場である湖北町の放流効果が高い結果となった。
- ・漁獲の主体は0歳魚であり、0歳以上の漁獲割合は、1歳魚が2.09%、2歳魚が0.27%と昨年と同様の傾向を示した。

年齢	標識種別	再捕尾数	混獲率	放流尾数	再捕率(%)
0	無標識	4,527	67.59		
0	栽培センター20mm種苗	1,386	20.69	531,000	0.002610
0	Dot標識魚(ふ化仔魚・発眼卵)	111	1.66	4,420,000	0.000025
0	SR標識魚(ふ化仔魚)	5	0.07	4,429,000	0.000001
0	湖北町地先20mm種苗	175	2.61	43,000	0.004070
0	冬期放流魚	336	5.02	45,000	0.007467
1	無標識	128	1.91		
1	栽培センター20mm種苗	1	0.01	1,224,000	0.000001
1	水試地先粗放養成種苗(0~30日齢)	1	0.01	355,000	0.000003
1	水試地先20mm種苗(センター筏生産魚)	3	0.04	121,000	0.000025
1	冬期放流魚	7	0.10	24,000	0.000292
2	無標識	18	0.27		
総計		6,698			

◆成果の活用・留意点

ふ化仔魚の放流を行う場合、天然産卵場に放流すると効果の高い結果となった。事業として大量放流を行う場合には、天然魚との餌の競合について考慮する必要がある、放流場所ごとの許容量を調査する必要があると思われる。